

2019年7月9日

日本イーライリリー株式会社

〒651-0086  
神戸市中央区磯上通 5-1-28  
www.lilly.co.jp

EL19-30

## 絵画・写真・絵手紙コンテスト 「リリー・オンコロジー・オン・キャンバス がんと生きる、わたしの物語。」 第9回の受賞者を発表・表彰

～ 最優秀賞は山本とし子さん(奈良県)、久保田将さん(愛知県)、横山全代さん(兵庫県)～

日本イーライリリー株式会社(本社:兵庫県神戸市、代表取締役社長:パトリック・ジョンソン、以下、日本イーライリリー)は2019年7月8日、神戸本社にて、第9回「リリー・オンコロジー・オン・キャンバス がんと生きる、わたしの物語。」絵画・写真・絵手紙コンテストの授賞式を開催し、絵画部門・写真部門・絵手紙部門あわせて139件の応募の中から、7名の受賞者を発表し、表彰しました。



【受賞者、審査員、後援者、主催社による記念撮影】

### 第9回「リリー・オンコロジー・オン・キャンバス がんと生きる、わたしの物語。」受賞者

#### 【最優秀賞】

|        |                    |                          |
|--------|--------------------|--------------------------|
| 絵画部門:  | 山本 とし子(やまもと としこ)さん | (奈良県大和高田市/71歳)『礼拝堂』      |
| 写真部門:  | 久保田 将(くぼた まさる)さん   | (愛知県名古屋市/39歳)『娘の祈り、親の決意』 |
| 絵手紙部門: | 横山 全代(よこやま まさよ)さん  | (兵庫県宝塚市/40歳)『母がくれた言葉』    |

#### 【優秀賞】

|        |                   |                               |
|--------|-------------------|-------------------------------|
| 絵画部門:  | 林 聡子(はやし さとこ)さん   | (千葉県流山市/45歳)『ひとりじゃないよ』        |
| 写真部門:  | 白鳥 稚晴(しらとり ちはる)さん | (静岡県静岡市/49歳)『刻のベール』           |
| 絵手紙部門: | 荘 文雄(そう ふみお)さん    | (東京都日野市/63歳)『パワーアップされ生き返った瞬間』 |

#### 【一般投票賞】

|        |                   |                        |
|--------|-------------------|------------------------|
| 絵画部門:  | 林 聡子さん            | ※「優秀賞」と同時受賞            |
| 写真部門:  | 久保田 将さん           | ※「最優秀賞」と同時受賞           |
| 写真部門:  | 東山 由実(ひがしやま ゆみ)さん | (北海道伊達市/54歳)『きっと 大丈夫。』 |
| 絵手紙部門: | 横山 全代さん           | ※「最優秀賞」と同時受賞           |

日本イーライリリーの執行役員でオンコロジー事業本部長の勝間 英仁は、次のように述べています。  
「リリー・オンコロジー・オン・キャンパスは、がんと告知された時の不安や、がんと共に生きる決意、がんの経験を通して変化した生き方などを絵、写真、絵手紙とエッセイで表現し、多くの人とその想いを分かち合っていただく『場』です。9 回目を迎えた今年は、昨年を上回る多くの方にご参加いただき、想いの輪が広がっていることを実感しています。本コンテストが、がんになっても自分らしく生きられる社会の実現の一助となることを心から願っております。日本イーライリリーは今後も革新的な抗がん剤の開発に取り組むとともに、患者さんや支援者の皆さんの心に寄り添い、継続的なサポートを提供してまいります」

第 9 回の受賞作品は、全国の医療機関や疾患啓発イベント等で展示されるほか、リリー・オンコロジー・オン・キャンパスのウェブサイト及び Facebook に掲載されます。

### <第 9 回「リリー・オンコロジー・オン・キャンパス がんと生きる、わたしの物語。」 募集・審査について>

募集期間： 2018 年 7 月 17 日～2019 年 1 月 31 日

応募件数： 絵画部門 43 件 写真部門 65 件 絵手紙部門 31 件

募集テーマ： 「がんと生きる、わたしの物語。」

審査： 【最優秀賞、優秀賞、入選】

絵画・写真・絵手紙作品ならびに制作背景を綴ったエッセイについて、作品の技術的・芸術的な評価よりも募集テーマを的確にとらえた作品であるかを重視し、以下 4 名の審査員により 2019 年 4 月 1 日に行われ、最優秀賞、優秀賞、入選の計 12 点を決定しました。

【一般投票賞】

審査員により選出された作品 12 点を対象に、4 月 19 日～6 月 2 日の期間中、リリー・オンコロジー・オン・キャンパスのウェブサイトにて一般投票を実施し、決定しました。

審査員： 蓑 豊(兵庫県立美術館 館長)、岸本 葉子(エッセイスト)、  
東儀 光則(銅版画家)、平山 ジロウ(フォトグラファー) ※順不同／敬称略

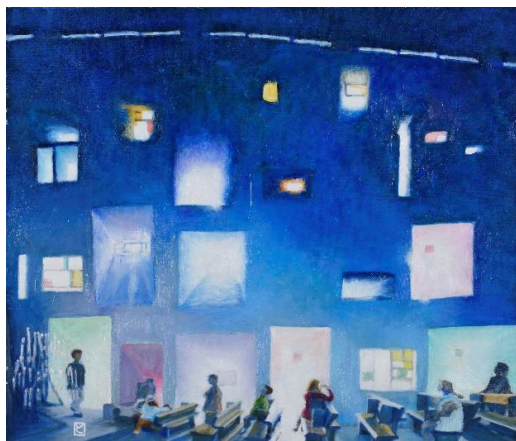
賞： 最優秀賞(各部門 1 名)、優秀賞(各部門 1 名)、一般投票賞(各部門 1 名)、入選(若干名)

### 日本イーライリリーについて

日本イーライリリー株式会社は、米国イーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人です。人々がより長く、より健康で、充実した生活を実現できるよう、革新的な医薬品の開発・製造・輸入・販売を通じ、がん、糖尿病、筋骨格系疾患、中枢神経系疾患、自己免疫疾患、成長障害、疼痛、などの領域で日本の医療に貢献しています。詳細はウェブサイトをご覧ください。<http://www.lilly.co.jp>

【最優秀賞】 絵画部門

山本 とし子（やまもと としこ）さん <奈良県大和高田市> 作品タイトル『礼拝堂』



■エッセイ(抜粋)

「あれ」20年前にステージ1の乳がんの手術をした傷痕が今頃痛み出したのかと思いました。結果、左肺の扁平上皮癌でステージ4の診断でした。脳に転移有。父も肺がんで亡くなっているし。高齢の母もいる、4人姉弟の長女として母の精神的支えになっていると自負していたのと思う事もいろいろ出て来ました。かかったものは仕方ありません。髪も大分薄くなったけどこれはスカーフでいける。今までお祈りなど真剣にしていなかったがこの礼拝堂の色々な窓の形と光をみてきれいだなあ何だかありがたいなあと言う気持ちで描きました。

【最優秀賞／一般投票賞】 写真部門

久保田 将（くぼた まさる）さん <愛知県名古屋市> 作品タイトル『娘の祈り、親の決意』



■エッセイ(抜粋)

転院をする前日に“病院に行く前にご挨拶していこう”と、石川県内の白山神社で撮った1枚です。娘の真剣な表情に息をのみ、癌と対峙する娘の想いが伝わりました。祈ることで、身と心を引き締めることの大切さを、この時の娘の姿から学びました。娘の体は治療により抵抗力が落ちているため、外出がかなり制限されています。そんな中、娘が見つけた楽しみが、朝早くに神社へ赴き、鳥居の前で一礼、手水舎で手を清め、参道の端を歩き参拝。その後でおみくじを引き、好きなおまもりを買うことでした。家族でいつも笑っていたい。そんな思い出をこの先もずっと作り続けていきたい。

【最優秀賞／一般投票賞】 絵手紙部門

横山 全代（よこやま まさよ）さん <兵庫県宝塚市> 作品タイトル『母がくれた言葉』



■エッセイ(抜粋)

「お弁当持って来年も花見しようね。」大好きな母との約束。桜が散り終わった頃、母のガンが分かった。手術をし成功したが、半年経たない間に転移が確認された。それから毎日、昼と夜のお弁当を作った。仕事が終わると夜のお弁当を持って母の病院へ。「おかえり。今日は何かあったの？」いつもと変わらない会話。私が母に元気をあげなきゃいけないのに、私が毎日元気をもらっている。「ガンでも良いことがある」母の言葉にはパワーがある。でももう、母からの言葉はない。ガンと分かってからの毎日は、つらく・悲しく・苦しいはずだったのに、何故だろう…。かけがえのない毎日だった。



【優秀賞／一般投票賞】 絵画部門

林 聡子 (はやし さとこ) さん <千葉県流山市> 作品タイトル『ひとりじゃないよ』



■エッセイ(抜粋)

私は乳癌という病名を告げられた。子供の受験を控え、新しい仕事も順調に決まり「これから！」という時だった。この先の事を考えると不安と恐怖で涙が溢れ毎日泣いてばかりいた。そんな時「絵は家でいつでも描けるでしょ。この為に絵と出会ったんじゃない？」と子供に言われたことで、私は救われることになった。当たり前と思っていた場所(日常)は、実はクジラのように大きな愛(家族)の上であり、七色の樹(優しさ)に守られ、寄り添ってくれている鳥たち(友人や大切な人達)に囲まれている特別で幸せな世界なんだという想いを込めて描きあげた。

【優秀賞】 写真部門

白鳥 稚晴 (しらとり ちはる) さん <静岡県静岡市> 作品タイトル『刻のペール』



■エッセイ(抜粋)

癌という病気を受け入れるまで長い時間がかかった…。闘病生活に向けて沢山の大きな決断を迫られ 17 年間連れ添った大切な家族(ペット)との別れは自身の病よりも辛く「癌」と言う病を心の底から憎んだ…。社会復帰出来た時は当たり前の事が物凄く嬉しかった。幸せって心の持ちようでこんなに違うんだ。なんて事も恥ずかしながら癌になって気がつかされた。最近になり少しずつですが趣味の撮影意欲も湧いてきて絶景に出会ってきました。好きな事が出来る喜びの感覚も少しずつ取り戻せてきている今に命の有り難さを感じています。

【優秀賞】 絵手紙部門

荘 文雄 (そう ふみお) さん <東京都日野市> 作品タイトル『パワーアップされ生き返った瞬間』



■エッセイ(抜粋)

毎日運動を欠かさずしてきた自分に突如襲って来たのが、想像も付かないからだの変化でした。早目入院して治療の方がよろしいですよ、と言われ、気持ちが動転し、何だか分からないまま入院しました。急性骨髄性白血病と言う血液の癌にかかっていました。2ヶ月後に骨髄バンクから私と同じ白血球の型のドナーが見つかり骨髄移植の日が決まりました。移植日、私の体には、ライフラインがたくさん繋がっていて、新しい命が入って来たのが感じ取れました。パワーアップし生き返った瞬間でした。

【一般投票賞】 写真部門

東山 由実 (ひがしやま ゆみ) さん <北海道伊達市> 作品タイトル『きっと 大丈夫。』



■エッセイ(抜粋)

10年前に子宮頸がんになったとき。車のラジオから子どもが小さい頃大好きだったアニメのマーチが流れてきた。我慢していた涙が溢れ、大声で泣きながら歌った。9年前に乳がんになったとき。衝撃には耐性ができていたのか、2年続けてがんになるなんて不思議だった。2年前乳がんが再発したとき。すっかり安心していただけに、感じたことのない恐怖が一気に私を襲った。でも子どもたちのために絶対死なない。ふと見上げた真っ青な夏空には、大きな鳳凰のような雲。そして今。何を目標に進めばよいのか気持ちを保つのも簡単なことではない。そんなとき出かけた先で、山の中から今生まれたばかりの鮮やかな虹が目の前に現れた。次の何かへ私を導いてくれているのかなと思えた。